

## ”子どもの求める愛”

ふと考えてしまいました。

「母さん、ちょっと来てよ。」と、子どもが言う。夕御飯の洗い物をしていたお母さんは何かと思って、急いで手を拭きながらその子どもの元に行く。子どもはにこにこしながら横に座ったお母さんの方にちょっと身をすり寄せ、黙ってテレビを見ている。

「なあに？お母さんは洗い掛けしてるんだから、用があったらさっさと行ってよお。」と。途端に子どもの表情が変わり、ぶっきらぼうに、「いいよ！あっちへ行けよ！いつもそうなんだから。」と言う。そんな口をたたかれたお母さんも怒ってしまい、「ったくう、一体何なの、それは。」エプロンの端を両手で力一杯ギュッと絞り込みながらさっさと台所に戻っていく。

子どもにとってただ時間を共有するだけでも十分な愛なんだなあ、そんなことを現実と感じた日でした。この子どもって、最近ちょっと生意気になって、気に入らないことがあると処構わず暴れ出す男の子の話です。

2000年10月11日（水）付け「ひげぐま先生のひとりごと」から